

令和4年度 東久留米市立 東中学校 学校評価報告書

学校教育目標	師弟同行を重んじ、強い責任感と思いやりを持って、正しい判断と実践のできる想像力豊かで心身ともに健全な生徒の育成を目指す。 ○ よく考え、自主的に高度する生徒 ○ 責任を果たし、努力する生徒 ○ 健康で、心豊かな生徒	【目指す学校像】	○生徒が明るく元気な学校 ○SDGsに取組む学校	○生徒が個性を伸ばせる学校 ○GIGAスクールを推進する学校	○生徒が相談しやすい学校 ○きれいで清潔な環境の学校	○不登校やいじめのない学校 ○保護者・地域が信頼する学校	
		【目指す児童・生徒像】	○生き生き生活する生徒 ○誰にでも挨拶のできる生徒	○思いやりのある生徒 ○主体的に進んで取り組む生徒	○責任感が強く行動力のある生徒 ○デジタル化に意欲のある生徒	○自治活動のできる生徒 ○常に課題を探求し取り組む生徒	○体力向上に取り組む生徒 ○SDGsに取り組む生徒
		【目指す教師像】	○生徒を第一に考える教員 ○教育理念・哲学を持った教員 ○人間的な魅力のある教員 ○人権感覚・人権意識の高い教員 ○授業改善に取り組む教員 ○研究・研鑽に取り組む教員 ○SDGsに取り組む教員 ○デジタル化に強い教員 ○安全教育に積極的に取り組む教員 ○ユニバーサルデザインの視点のある教員 ○特別支援教育を推進する教員 ○教育相談に強い教員 ○ライフ・ワーク・バランスを実行する教員 ○保護者・地域関係者と連携する教員				
前年度までの学校経営上の成果と課題	(成果)①感染症対策を講じながら可能な限り行事を実施し、生徒の活躍の場を作り自己肯定感の醸成に繋がれた。 ②キャリア教育の一環として卒業生による職業講話を実施、また、留学生との交流など外部人材の活用が図れた。 ③各教科で課題解決授業、教科横断的授業を実施し生徒の取組み意欲の向上がみられた。単元別テストを実施し、日常の学習習慣の定着を図った。 ④いじめ防止・不登校対策に取組みいじめの早期発見・解決を図ることができた。 ⑤特別支援学級と通常級の交流共同作業や特別支援教室の拠点校としての運営に成果が見られた。					(課題)①単元学習や評価について、保護者への理解が十分得られていない面が見られた。 ②タブレットパソコンを活用した授業が活発に行われるまでに至っていない。 ③ユニバーサル・デザインを教育環境に十分活かしていない面が見られた。 ④教員のライフ・ワーク・バランスの改善が十分に図られていなかった。	

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和6年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	①自己肯定感の調査数値50%達成 ②自己有用感の調査数値50%達成	①自己肯定感の調査数値40%達成 ②自己有用感の調査数値40%達成	①特別の教科「道徳」の「自分のよさ」授業の指導工夫 ②特別活動での「自他の個性の理解」への取組 ③授業での「自己評価」「他者評価」の取組	個性尊重教育の達成度が満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	4	4	・コロナ禍、生徒が元気に個性を伸ばす教育がなされている。 ・ジェンダー教育の実施等、多様性を認め合う教育を進めてほしい。 ・生徒一人一人に対し細かな指導をして、生徒が自主的に考え行動する力を育てよう指導している。	・特別の教科 道徳の授業を中心に道徳教育を活性化することで、互いに個性を認め合う意識の向上を図る。 ・特別活動を通して、学級や学年集団の形成者としての自覚をもたせ、自主的、実践的な活動をより活性化させ、自他の個性の理解や自己肯定感の醸成を図る。 ・制服の規制緩和等、ジェンダーフリーを進めていく。 ・異年齢集団の活動を通して、上級学年はリーダーシップを発揮し、互いに他を認め合う心を育てよう。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	①特別活動の評価・A評価50%達成 ②特別の教科「道徳」の評価・A評価50%達成 ③生活指導の評価・A評価50%達成	①特別活動の評価・A評価30%達成 ②特別の教科「道徳」の評価・A評価30%達成 ③生活指導の評価・A評価30%達成	①運動会・文化祭・合唱コンクール等行事の工夫 ②特別の教科「道徳」の授業改善や生活指導講話の充実 ③特別活動の充実(学級活動・生徒会活動)	規範意識の醸成や豊かな心の育成に対し、満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	4	4	4	・活発な運動会・文化祭・合唱コンクールが評価できる。 ・自己肯定感・自己有用感、規範意識と人間関係醸成は主に家庭生活の中で親が子に伝えるのが理想。道徳を学校で教師が生徒に伝えるには、教師の態度、性格が大きく影響すると思うので教師の資質が重要。	・各種行事への参加意欲をさらに高めるために異年齢集団の活動を積極的に取り入れる。 ・60周年記念行事として、運動会・文化祭・合唱コンクールをより生徒が主体となり意欲的な取組となるよう指導する。 ・生徒会活動をより活発にし、生徒主体に行える内容を増やし、自主自立した生徒の育成を目指す。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	①いじめの発生率1%及び解消率100% ②いじめの早期発見及早期対応 ③不登校生徒の出現率3%以内・解消率50%	①いじめの発生率3%及び解消率100% ②いじめの早期発見及早期対応 ③不登校生徒の出現率5%以内・解消率30%	①面談・アンケートの実施及び分析・対応 ②いじめ防止対策委員会(週1)による組織的対応 ③特別活動や外部関係機関を活用した不登校対策	いじめ・不登校問題への対応に対し、満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	4	4	4	・組織的対応が評価できる。 ・学校へ適応できていない生徒の話の聞いたり、声をかけたりして少しでも心の支えになってほしい。 ・表面に表れないところで様々な思いを感じている生徒がいると思うので、教員からの声掛けしてほしい。	・いじめ防止対策委員会の内容を充実させ、全教員にいじめに対する認識や対応を周知するとともに、いじめ未然防止のための授業や取組を組織的・計画的に行う。 ・hyper-QU検査を活用したより良い学級集団づくりに取り組み、いじめや不登校の未然防止を図る。また、講師を招いた研修を通して、検査の活用法を教員が身に付ける。 ・1、2年生の三者面談を増やし、保護者との連携を深め、よりきめ細やかな対応ができるようにする。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	各種学力調査の活用	①全国学力・学習状況調査・標準偏差+3以上 ②東久留米市学習定着度調査・標準偏差+3以上	①全国学力・学習状況調査・標準偏差+1以上 ②東久留米市学習定着度調査・標準偏差+1以上	①全国学力・学習状況調査(国・数)の課題の分析と改善 ②市学習定着度調査(国・数)の課題の分析と改善	各学力調査の活用について満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	3	3	・市学習定着度調査を活用して学力向上に努めている。	・各種学力調査の結果から各教科の重点課題や課題解決のための具体的な手立てを全教員で共有し、実践していく。 ・授業改善推進プランに基づいた授業改善の取組と検証を確実に実施する。 ・教員の授業力向上を目指した校内研修を実施するとともに、積極的に外部研修を活用する。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	①国語・数学における校内標準値70点 ②国・数・社・理・英の校内標準値70点 ③総合的な学習の時間の満足度A	①国語・数学における校内標準値60点 ②国・数・社・理・英の校内標準値60点 ③総合的な学習の時間の満足度B	①授業改善推進プランに基づいた継続的な授業改善 ②教科等横断的な視点での5教科の授業改善 ③教科等横断的な視点を支える総合的な学習の時間	基礎的・基本的な学力の定着について、満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	4	3	・学力低下を危惧する保護者が散見され、教師も心配しているようである。原因を究明し、来年度は全国平均以上になることを期待する。	・モジュール学習を活用し、生徒に基礎基本の定着を図る。 ・放課後補充教室や長期休業中の補習、定期考査前の質問教室等を実施し、学力下位層の底上げを図る。 ・保護者と連携し、家庭学習の定着を図るよう働きかける。 ・SDGsの学習を通して教科等横断的な学びを継続し、課題解決力の育成を図る。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	①全教科デジタル教科書の活用と定着 ②全教科タブレット端末を活用した授業の実施 ③全教科オンライン授業実施可能な環境整備	①数学科・英語科のデジタル教科書の活用と定着 ②複数教科タブレット端末を活用した授業の実施 ③複数教科オンライン授業実施可能な環境整備	①数学科・英語科でデジタル教科書を使った研究授業の実施 ②複数教科でタブレット端末を使った研究授業の実施 ③特別活動等でリモートやオンラインの活用	ICT機器の活用について、満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	3	3	・タブレット端末の活用が評価できる。 ・WiFiの整備が進んでおらず、同時に使用できる台数がとても少ないのには驚いた。通信インフラのない環境下でのデジタルデバイスの利用は疑問。	・タブレット端末の授業でさらなる活用を図るために、研修会を実施する。 ・数学科、英語科でデジタル教科書を活用した実践例を研修し、授業でより効果的な活用を図る。 ・タブレット端末の家庭学習での活用を計画的に推進していく。 ・不登校生徒の学習にタブレットを活用した授業配信を進める。
7	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	①特別支援教育のA評価20%の学校 ②特別支援学級の運営の向上と安定 ③特別支援教室拠点校の運営の向上と安定	①特別支援教育のA評価20%の学校 ②特別支援学級の運営の推進 ③特別支援教室拠点校の運営の推進	①校内委員会の充実と通常級との連携強化 ②知的固定級の研究授業の実施(年3回) ③特別支援教室の研究授業の実施(年3回)	特別支援教育に満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	4	4	・特別支援教室拠点校の運営と推進の成果が、他校に影響を与えることを考えると、とても重要で責任がある。誰でも教育が受けられる格差のない社会に貢献することは大切である。	・特別支援教育に関する校内研修を実施し、全教員の意識の向上を図る。 ・校内委員会の更なる充実と外部機関との連携を図る。 ・通常級と特別支援学級との交流や連携の更なる強化を図る。 ・各教室のバリアフリー化を推進する。 ・特別支援教室に通う生徒の特性や指導時の配慮事項の共有を徹底する。
8	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や保護者と連携した防災教育	①防災教育の定着 ②安全教育の定着 ③地域と連携した防災訓練の定着	①防災教育の推進 ②安全教育の推進 ③地域と連携した防災訓練の推進	①「防災・避難訓練」や「防災に関する講話」の実施 ②セーフティ教室や薬物乱用防止教室・救命救命講習会の実施 ③地域と連携した防災訓練の実施	防災・安全教育に満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	4	4	・セーフティ教室が評価できる。	・安全指導教育の計画的、組織的に実施する。 ・消防署と連携しAED講習や普通救命講習による応急手当法を全学年で習得させる。 ・セーフティ教室、薬物乱用防止教室を外部講師を招聘して実施する。 ・避難訓練の方法を工夫し、より実践に即した訓練を実施する。 ・地域の防災訓練に生徒が参加できるよう働きかける。
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	①全員が時間外勤務45時間以内を実現 ②部活動指導員や民間人材の活用による部活動時間の削減 ③外部人材を活用した業務の分担化・適正化	①80%の教員が時間外勤務45時間以内 ②外部指導員や地域ボランティアの活用による部活動時間の削減 ③業務の分担化・適正化による業務量の削減	①校務支援システム活用による事務の効率化 ②外部指導員等活用による部活動の負担軽減 ③スクールサポートスタッフや学力強化支援員の活用	ライフ・ワーク・バランスの取組に満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	1	2	2	・生徒数が減っている時代でも教職員の勤務環境は改善していないのは何故か？教師自身にゆとりがあった方が、種かて気持ちの良い教育現場がつかれ、教壇に立つ際にも晴れやかな授業ができると思う。	・部活動外部指導員を活用した部活動指導の負担軽減を図る。 ・外部人材を活用した校務の効率化を図る。 ・校務分掌の役割分担を見直し、偏りがないようにする。 ・デジタル化の促進により、教員の校務削減を図る。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	①外部人材を活用した授業の実践 ②ESD/SDGsを推進し、その能力・態度を習得 ③英語を使った「討論」や「やり取り」の定着	①外部人材の発掘を進め授業実践を行う ②ESD/SDGsの取組みを通してその知識・技能を習得 ③英語を使った「討論」や「やり取り」の推進	①新たな外部人材の発掘を行う ②ESD/SDGs教育の継続と方向性の共通理解を図る ③ALT活用と留学生との交流授業の実施	地域人材や外部講師を活用した教育に満足・概ね満足が A: 85%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 30%未満	3	3	3	・地域と連携した防災訓練は、とても有意義なこと。平日昼間の災害時に地域にいる活動能力のある者は中学生です。救命講習と併せて是非継続して頂きたい。 ・60周年に合わせて生徒の記憶に残るものを計画して欲しい。	・同窓会による職業講話を継続させる。 ・ESD/SDGs教育の継続を通して外部人材の活用を推進し、内容の充実を図る。 ・ALTを活用し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ・60周年記念の節目として、外部人材を活用した授業を実施する。